

ひと



ポラスグループ・中央住宅の本拠地・越谷市は旧日光街道の宿場町だった。現在も、旧街道沿いに蔵や古民家が点在するものの、老朽化が進み、その数は減少の一途をたどっている。

中央住宅は2013年11月に取得した戸建分譲用地内に現存する推定築年数約150年の「油町内蔵」の移設・補修に取り組み、2月に越谷市に寄贈した。

中央住宅・戸建分譲設計本部 池ノ谷 崇行さん
営業企画設計一課係長

年夏に戸建分譲用地として取得した築120年もの古民家「旧大野邸粹屋」も、地元の活性化を視野に保存・所有する方針に転換。今秋の竣工をめざし、補修に着工する。これらの再生事業の先導役だ。

折衝するなど、プロデューサー役を担う。通常、案件にかかる期間は約半年。100棟の案件でも2年未満で完了する。補修を控える旧大野邸は、材木商の分家だったと現場に出ることも滅多にならぬ。その名残は屋久杉の一枚物の檜の廊下など。一方、内倉再生を伴う事業は、現場への日参は当たり前。補修の最中に新たな素材の品質や建築技術の高低に現れている。改修な問題が発生し、足踏み状態になったり、許可申請に時間を要する。

社内初の古民家再生を先導

2003年に新卒で入社。1年間の営業を経て、分譲戸建ての設計に携わる。現在も年間約100棟もの企画設計を担う。その一方で、人脈を広げながら古民家専門の施工業者などを探したり、手続のため行政や

は屋根のゆがみを直すなど、最低限にとどめ、原形を生かす方針だ。多目的に利用できる複合施設として再生して賃貸する。「多くの人に触れる機会を提供したい。社員教育にも役立つ」と期待を寄せる。

「頭の中に描いたモノを形にしたい」という夢を励みに乗り切った。「これで終わらせるのではなく、次の現場にも生かしたい」と声を弾ませた。

(菜)